

社会福祉法人 鶴の会 きのこセンター翼

2011年6月に就労継続支援A型事業所を開所、現在(平成29年4月)35名の利用者を雇用しております。事業内容としては、菌床きのこ(椎茸、きくらげ、なめこ、ひらたけ)を空調設備の整った2棟とハウス4棟で栽培し、出荷までを行っております。空調管理された栽培棟では、一年中安定して様々なきのこ栽培が可能になっております。

利用者には収穫、パック詰め等の仕事を中心として、多様な作業を提供してます。

自立した生活の為に必要な安定した収入と、個々の能力向上を図り、将来一人でも多くの利用者が一般就労に就ける様に努めております。



生産性を高めるポイント

- ①作業効率をあげる ②商品開発 ③新規開拓

①作業効率をあげる

生産の主役である利用者がより良い環境で作業できるように整備する。

身体に障害がある、数字を理解できない等といった利用者には障害を補う作業道具を開発。

日々の観察、コミュニケーションととり、その日の体調に合わせた作業配置を行う。

②商品開発

生きのこの販売だけでなく、加工した商品の開発を行う。

・きのこご飯の素

当事業所では製造できない為、食品会社と共同で開発を行う。

・乾燥きのこ

企業独自でオリジナル商品を開発したいとの事で材料提供を行う。

・新たな生産

マッシュルーム、まる椎茸といった新しいきのこ栽培を行う。

③販路の新規開拓

生きのこは直売所、スーパー、飲食店を中心に販売しており、商品を販売してもらえる店舗を増やす。国産乾燥きくらげは希少であり、今後も多くの需要が見込まれている為、生産量を増やし新規企業との取引を行う。

地域の方々や取引先の企業との連携を図り、信頼関係を築くことが大切です。

稲葉

企業との結びつきについて

全国的にも就労継続支援A型事業所の一般就労への移行率は微増に留まっています。
きのこセンター翼では障害者就業生活支援センターやハローワークと密に連携を取り一般就労への送り出しを行っております。
利用者の評価表を作成し、本人の課題を洗い出し、その課題についての取り組みを行っていく。
職場体験実習を行い、実際に働いての課題を検討し、一般就労へと繋げていく。
地域の交流を深めていくことで地元企業への就職の可能ができ、福祉と一般企業の結びつきになるのではと考えております。